

李明姬 李 晨 / 著

交际语言学
理论与方法

コミュニケーション

言语学理论与方法

JIAOJI YUYANXUE
LILUN YU FANGFA



コミュニケーション言語学理論と方法

交际语言学理论与方法

李明姬 李晨 著

西南交通大学出版社

· 成 都 ·

图书在版编目 (C I P) 数据

交际语言学理论与方法: 日文 / 李明姬, 李晨著.
—成都: 西南交通大学出版社, 2016.12
ISBN 978-7-5643-5168-7

I. ①交… II. ①李… ②李… III. ①言语交往—语言学—日文 IV. ①C912.13

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2016) 第 298561 号

交际语言学理论与方法

李明姬 李 晨 著

责任编辑	祁素玲
特邀编辑	童 荷
封面设计	墨创文化
出版发行	西南交通大学出版社 (四川省成都市二环路北一段 111 号 西南交通大学创新大厦 21 楼)
发行部电话	028-87600564 028-87600533
邮政编码	610031
网 址	http://www.xnjdcbs.com
印 刷	四川煤田地质制图印刷厂
成品尺寸	165 mm × 230 mm
印 张	10.5
字 数	194 千
版 次	2016 年 12 月第 1 版
印 次	2016 年 12 月第 1 次
书 号	ISBN 978-7-5643-5168-7
定 价	29.80 元

图书如有印装质量问题 本社负责退换
版权所有 盗版必究 举报电话: 028-87600562



前書き

「世界ナンバーワンのカリスマコーチ」と称される自己啓発作家、講演家、アメリカのカリフォルニア州生まれのロビンズ・アンソニー (Robbins, Anthony) は、以下のような人生哲学の話をしました。

「人生の質はコミュニケーションの質で決まる」 (アンソニー・ロビンズ)。

近年には、中国でも人的の流動と人々の人間関係やコミュニケーションのふれあいが日常的であるようになりました。それに伴って中国語らしい言い方があります。

「要想闖天下，先学会說話。」出世しようとするれば、先んじて話し上手のことを身につけよう。ここでの「会說話」は、つまりコミュニケーションや話し上手の重要性と出世の可能に強く結ばれているのではないのでしょうか。

21 世紀に入ってからコミュニケーションについての研究や実践教育は目新しい発展時期になりました。認知意味論や認知語用論の研究は成果が上がっているとともにコミュニケーションの科学性、コミュニケーション・コンピテンスの上達法は日常の交流からビジネスコミュニケーションまで、社会的な共同知見になります。日本語教育においてもパラタイムの転換期になります。従来の一貫文法教育からコミュニケーションのための日本語教育に転換しているようになります。

さらに、個人間コミュニケーションだけではなく、個人と組織、組織と組織、マス・メディアやソーシャル・メディアなど双方向のコミュニケーションが必要になります。インターネット上で展開される情報メディアのあり方、個人による情報発信や個人間のコミュニケーション、人の結びつきを利用した情報流通などといった社会



的な要素を含んだメディアも近々に感じられてきました。

本書は、日本語教育現場に活躍される李晨担当と李明姫担当の長年の積み込みによってコミュニケーション理論から実践、およびトレーニングまで講義に取り入れ、理論の解説を踏まえながらコンピテンス訓練を重ねました。『ビジネス日本語』とこの『コミュニケーション言語学の理論と方法』をコンビとして日本語教育プログラムを充実しました。学生たちが授業の中で身につけたコミュニケーション・スキルを社会という場で使うことによって、少しでも対人関係の悩みが軽減されるよう願っています。また、すでに社会に出て人間関係で苦勞しているビジネスマンに対しては、本書を読むことによって自己表現の方法を再確認し、対人関係の改善のきっかけになることを望んでいます。

本書の構成は、コミュニケーション論とコミュニケーションコンピテンスの二つの部分で構成されています。コミュニケーション論部分では、コミュニケーションを学ぶ意義、モデル、各プロセスの要素を紹介しながら、科学コミュニケーション（多方向コミュニケーションと PUS）をもって進みまして、さらにことばコミュニケーションと非言語的コミュニケーションを取り広げました。コミュニケーションコンピテンス部分では、コミュニケーションの基本から始め、コミュニケーションの「聴く」「話す」「伝える」3つのスキル作法、効果的なコミュニケーションを実現するためのトレーニングを紹介しました。

最後に、本書に取り上げられた内容構成は日本語科の学部生と院生を対象とする3回（3年度分）の講義実践をまとめて整理したものです。講義の中の理論説明、内容構成順序、ワープロミスなどの不備のところに学生さんからと相関科目の教師の方々から有意義な助言を多数いただきました。ここで再び感謝を致します。

二〇一六年十月十日 李晨



目 録

第1部 コミュニケーション論

- 1 コミュニケーションとは何か/3
 - ▶1.1 コミュニケーションとは/3
 - ▶1.2 コミュニケーションを学ぶ意味/6
 - ▶1.3 コミュニケーションのモデル/7
 - ▶1.4 コミュニケーションプロセスの要素/8
- 2 科学コミュニケーション/15
 - ▶2.1 科学技術リテラシー/16
 - ▶2.2 PUS 論の概観/21
 - ▶2.3 受け取ることのモデル/23
 - ▶2.4 伝えることのモデル/35
- 3 マス・コミュニケーション/39
 - ▶3.1 コミュニケーション・メディア/40
 - ▶3.2 マス・メディアの影響/43
 - ▶3.3 受け手の能動性/52
- 4 ことばとコミュニケーション/56
 - ▶4.1 ことばとは何か/56
 - ▶4.2 ことばの役割/60
 - ▶4.3 ことばの3つレベルのコンピテンス/66



5 非言語的コミュニケーション/73

- ▶5.1 ノンバーバル・コミュニケーション特徴/74
- ▶5.2 ノンバーバルコミュニケーションの種類/81

第2部 コミュニケーションコンピテンス

6 コミュニケーションの基本/87

- ▶6.1 コミュニケーションの心構え/87
- ▶6.2 コミュニケーションの心がけ/91

7 コミュニケーション・スキル/95

- ▶7.1 聴くスキル/95
- ▶7.2 話すスキル/104
- ▶7.3 伝えるスキル/121
- ▶7.4 ロジカル・シンキング/125
- ▶7.5 プレゼンテーション力/130

8 コミュニケーション・トレーニング/139

- ▶8.1 伝達トレーニング/139
- ▶8.2 傾聴姿勢/142
- ▶8.3 共感の技法/143
- ▶8.4 アサーション/145
- ▶8.5 自己開示紹介/149
- ▶8.6 コーチング/151
- ▶8.7 非言語コミュニケーション・トレーニング/154

参考文献/158

第1部

コミュニケーション論

1 コミュニケーションとは何か

1.1 コミュニケーションとは

コミュニケーション (communication) の語源は、ラテン語のコムニス (communis) すなわち共通したもの、あるいは共有物 (common コモン) と言われています。これは、コミュニケーションの本質を理解する上で重要なことです。

コミュニケーションは、したがって「時間的位相における推移のなかで、情報やデータが『共通のものとなる』という現象一般」のことと定義することができます。

コミュニケーションの日本語への翻訳は多様で辞書をみても、伝達、報道、文通、伝染 (cf. communicable disease)、連絡、情報、通信、交通 (コンピューター) などがあり、何かが伝えられていることを指し示しています。しかし、これは伝えられることを通して、「何かが〈共有〉される」というある事態の結果、ないしはその進行のプロセスのことを意味していると理解したほうがいいです。コミュニケーションについては英語も日本語も、そのような意味が主たるものです。

したがってコミュニケーションの理想的な翻訳は「伝達共有過程」ないしは「伝達の共有」というのが、もともと語義にかなったものになります。ここから展開すると、コミュニケーションはメッセージの相互のやりとり、ないしはそのようなやりとりの結果、ある事象が共有されている状態ということになります。

すなわちコミュニケーションとは、相手の発信するメッセージに耳を傾けることによって相手を受け入れ、次に自分がメッセージを発信するという一連のサイクルのことです。



まず、会話における話し手が聴き手に向けてメッセージを発信します。聴き手は、そのメッセージをしっかり受け止めてから、リアクションやレスポンスを考えて話し手に自分のメッセージを発信します。それを受けて最初の話し手がまたそのリアクションを行います。こうした一連の循環的・連続的プロセスをコミュニケーションと呼びます。

大切なことはコミュニケーションは、話し手も聴き手も一方的にメッセージを発信したり受信したりすることではないということです。お互い相手のメッセージの意味を理解し、よく考えてから交互にメッセージをやりとりすることでコミュニケーションが成り立つのです。

ここで、コミュニケーションに関する自己診断をやってみましょう。今の自分はコミュニケーションが取れているといえるかどうか、チェックリストに回答した後に診断結果を読んで確認してみましょう。

表 1-1 自己診断チェックリスト

次の各質問について、自分の考えや行動に当てはまる（または、近い）答えを下の選択肢から選び、その記号回答欄に記入しなさい。

【答えの選択肢】

- A：いつも（そうする、そう思う）
- B：時々（そうする、そう思う）
- C：めったに（そうしない、そう思わない）
- D：絶対（しない、そう思わない）

質問

- 1 あなたは、新しく知り合った人や初対面の人と言葉を交わすことを楽しいと感じますか。（ ）
- 2 あなたが重要な話をしている途中でだれかが話の腰を折った時、話が終わるまで待ってくれるように頼みますか。（ ）
- 3 だれかがあなたについて悪口やうそをいいふらしていたら、できるだけ早くその人と話し合うようにしますか。（ ）



续表

- 4 あなたは、会議（ゼミやクラブ、学級会等）で部門長が明らかに間違
ったことをいった時、質問できますか。（ ）
- 5 あなたからお金を借りている友人がそのことを忘れているようであ
れば、返してくれるようにいいますか。（ ）
- 6 あなたは、列の前にだれかが割り込んできた時、文句をいいますか。
（ ）
- 7 だれかがあなたには納得できない不当な要求をしてきた時、それを拒
絶することができますか。（ ）
- 8 あなたが授業に集中している時、周りが騒がしかったら、静かにする
ように頼めますか。（ ）
- 9 あなたは、自分にとって価値があると思われる何かをやり遂げた時、
人にそれを知らせようとしめますか。（ ）
- 10 もしだれかが映画館であなたの座席の後ろをずっと蹴っていたら、や
めるようにいいますか。（ ）

表 1-2 「自己診断チェックリストA」の判定

回答欄に記入した記号に対応する次の点数を配点欄に記入する。

A : 10 点 B : 7 点 C : 3 点 D : 0 点

合計点	判 定
91～100	他人の気持ちや感情に配慮したコミュニケーションが取れる タイプです。これからも適切な自己表現と相手を尊重した人間 関係を心がけましょう。
70～90	日常のコミュニケーションには問題がないレベルです。自己主 張は大切ですが、その前に相手の言葉に耳を傾けて、意識して 相手の話の内容を受け止めるようにしましょう。
39～69	人との関係を苦手と思っているせい、あまり自分の考えや感 情を表に出さない人です。「なぜあの時、はっきりいえなかつ たんだろう」と後悔することがよくあります。あまりかっこを つけずに正直に自分の本心を出すようにしてみましょう。他人 に対して抱いていた感情が思い過ぎだったと気づくことがあ ります。
0～38	消極的な態度が見られます。そうした態度が続くと、ストレスか ら自信喪失につながってきます。人間関係は、相手に譲ったり譲 られたりして成り立つものです。何事にも我慢することなく、自 分に正直に素直に自己表現を行うよう心がけましょう。



1.2 コミュニケーションを学ぶ意味

私たちは「コミュニケーション」ということばを頻繁に使います。「家庭内のコミュニケーションがうまくいかない」、「先生と生徒とのコミュニケーションが十分ではない」、「医者と患者の間のコミュニケーションが…」という具合の、問題の原因はコミュニケーションに求めるようになりました。多くの問題はコミュニケーションを何とかすれば解決できると期待されるようでもあります。しかし、「コミュニケーションが十分、うまい、満足」とはどのような状態を指すのでしょうか。さらに、具体的に何をどのようにすればコミュニケーションが上達するのでしょうか。

これらの疑問点に納得いく答を出すことが、コミュニケーション学に期待されています。学問とは、今日学んだことが、明日から役に立つ、というものではないし、また、その程度で実際に役に立つ答が見つかるくらいなら、最小から「…学」など存在するわけありません。コミュニケーションというと、いかに自分を表現するか、どのようにして自分の気持ちを相手に伝えるか、という「いかに」の部分の強い関心を持つ人が多いです。しかし、その「自分」に目覚め、人に分かってもらいたいです。自分、相手に伝えたい中身を成長させるプロセスもコミュニケーションであると意識している人は意外に少ないです。自分、つまりそれぞれの「個」は人から与えられるものではありません。人と多くの状況で関わり合い、さまざまな角度からみずからを観察し、そのときどきの相手とのやり取りを通して築きあげていくのが自分です。自らを分かった人が、「自分」を知ることができます。

ヒトとして生まれてきた私たちを、人間という社会動物へと成長させる大事なプロセスがコミュニケーション。ということは、子供から青年、大人、老人へと時間の経過とともに、どのような人間へと成長するかということは毎日のコミュニケーションに深く依存している、と言えます。自分の生き方に大きく影響を与えるのが、家族、友人、教師、先輩、後輩、会社の上司、同僚、部下、それに、



毎日の生活の中で出会うすべての人たちのコミュニケーションなのです。コミュニケーションを学ぶということは、自分の表現の仕方を磨くだけではなく、表現すべき自分そのものを磨く、ということの意味しています。

コミュニケーションについて学び、自分自身の日頃の人間関係を客観的に観察、分析、批評することは、自分作りに直結しています。人と会話をしたり、冗談したり、あるいは議論をする過程で自分が出来上がっています。そんな大切なコミュニケーションの本質、仕組み、機能、それに問題点について考えるのは、コミュニケーション学を学ぶ人だけではなく、社会で生きようとするすべての人にとって意味があります。

1.3 コミュニケーションのモデル

ファッションモデル、モデルハウスのようにアイディア、概念、構想、企画などを、文字、画像、あるいは実物に近いものを使って表したものをモデルといいいます。コミュニケーションのような要素が含まれ、お互いがどのように関わり合い、影響を与え合うかを調べるためにモデルを使います。モデルを使うと対人コミュニケーションの本質、構造、機能などを理解することができます。さらに、モデルを自分自身の日常の対人関係に当てはめてみて、コンピテンス習得、発展の助けとすることもできるはずです。

図 1-1 は二人がコミュニケーションしている状況を図で占めたものです。このモデルは対人コミュニケーションとは二人の人間が、それぞれの考え、感情などを記号化過程で言語・非言語メッセージに変換し、チャネル(媒介)を使って相手に伝え、メッセージを受け取った方は記号解読過程で意味を読み取り、それに対する次のメッセージを相手に送るところを示しています。さらにコミュニケーション過程ではいたるところにノイズがあることも分かります。また、状況にもさまざまな要素があつて、メッセージの内容に影響を与え



ています。このように状況によって異なる、多くの予測できない要素が複雑に影響し合う中で両者にコミュニケーション・コンピテン스가備わっていれば、メッセージを正確に効果的、効率的に交換、共有し、満足できる人間関係が築けることが予想されます。

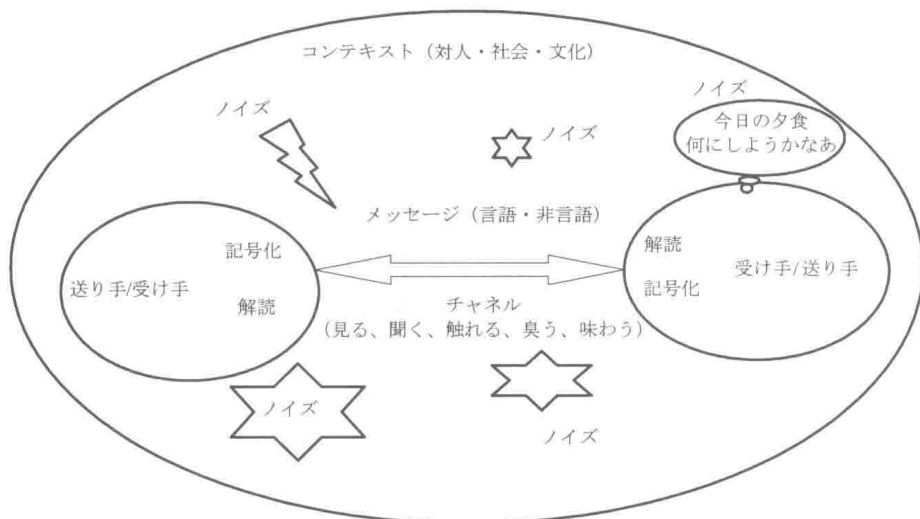


図 1-1 コミュニケーションモデル

1.4 コミュニケーションプロセスの要素

1.4.1 送り手・受け手

図1のコミュニケーション・モデルは、左側の「送り手/受け手」から、右の「受け手/送り手」にメッセージが送られている様子を表しています。送り手と受け手という名前はあくまでも便宜上のもので、固定された役割ではありません。また、このモデルの中での「今度食事しよう」という言語メッセージと、にこやかな表情・楽しそうな声という非言語メッセージは左側の人から発せられたものであるが、この二人は初対面ではありません。同じ日なのか、前日なのか、あるいは数週間前なのか、同じような場所だったのかなどわからないが、このメッセージにたどり着く経緯があったことには間違いありません。



連続性のあるコミュニケーション・プロセスの一瞬を切り取ってモデルにしているわけだから、この前後の「送り手・受け手」とモデルの中の二人は微妙ではあるが、違う人物と考える必要があります。したがって、送り手・受け手という名称は、固定された、静止したような印象を与えるが、これらはモデルを作るために便宜上つけられたものです。

1.4.2 記号化・解読

送り手・受け手が情報、感情、意見などを交換、共有するには、双方に共通の言語・非言語メッセージを使う必要があります。共通の記号、信号をシンボルと呼びます。シンボルを選んだり、作ったりする作業である「記号化」と受け取った記号から意味を読み取る「解読」について考えてみましょう。

このモデルの中で、左側の「送り手/受け手」はにこにこした顔で、相手の目を見ながら、楽しいそうな口調で「今度食事しよう」というメッセージを、右側の「送り手/受け手」に送っています。左側の人は右側の人に対して好感を持っています。この二人が異性同士だとすると、デートに誘う場面と見ることができます。異性に対する淡い恋愛感情はどのようなことば、行動を通して余すところなく伝えることができない、何とももどかしいものです。頭の中にあるものはもやもやとして、形をもたないことば以前のものなので、これを工夫して伝える努力をします。記号化の努力の結果、選んだのがこれらの言語・非言語メッセージです。

メッセージを受けた側は、これまでの相手との関係、交わした会話の内容などを考え合わせて送られてくるメッセージから「この人はデートに誘っているんだ」という意図を読み取ります。これが記号解読過程です。送られる記号、つまり「今度食事に行こう」という言語メッセージ、さらに「にこやかな顔」、「まっすぐに自分を見ている目」、「楽しそうな声」など、それぞれの記号そのものに



は意味が固定されているわけではないので、これまでの経験、文化的常識などと照らし合わせて最も適当と思われる意味を付加します。送られてくる記号に意味づけを行なうのが解読過程です。

1.4.3 メッセージ

メッセージは相手に伝えたい考え、感情、意見などを言語、非言語のシンボルで表したものです。ことば、声の大きさ、高さ、速さ、顔の表情、視線、姿勢、手の動き、服装、また文字で表す場合であれば字体、大きさ、紙の質などすべてが相互に影響を与えながら一つのメッセージを構成します。ことばは人間にだけ与えられたコミュニケーションの道具であることは間違いないのだが、対人コミュニケーションでは非言語メッセージが占める割合の方が断然高いです。

ことばは中身以外はすべて非言語メッセージとして分類されます。声の大きさ、高さ、口調、しゃべる速さなどの周辺言語から、顔の表情、視線、姿勢、身振り手振りなど身体の部位の意識的な変化、髪型、服装、アクセサリ、化粧など、身体の一部、あるいは服飾品。さらには、座って話すか、立って話すかという相手とのポジションとして駆使します。非言語メッセージが占める割合の方が言語よりも高いことは容易に理解できます。その分、メッセージを受ける側には、言語の中身より、非言語の特徴の方が目立ちやすいです。もし、送り手が受け手の顔ではなく、どこか違うところを見ながら、手をポケットに突っ込んだまま、あまり気持ちがこもっていないような話し方で、「好きだよ」と言ったら、聞いた方は、「え、何」と聞き返し、「何よその態度」と言いたくなります。言語と非言語との間にズレがあると、受け手は非言語の方に重点を置いて解読します。

1.4.4 チャネル

メッセージは一人歩きしないです。何らかの媒介を通して伝えら